

令和2年度授業改善推進プラン

	授業における課題や学力調査資料から見た課題	授業改善のための具体策	成果と課題(年度末)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 口頭で問われたことについては聞き取って考えることができるものの、書かれていることを注意深く読み、それを正確に把握する力に課題が見られる。 自分の考えを根拠を明確にしながらかく力が不足している。 読み取った内容を自分の中で咀嚼し、再構成して話したり書いたりする力に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業内で、生徒が問題等を「読んで」考える時間を計画的に設ける。また、音読・黙読等の「読む」活動をこまめに取り入れる。また、学校図書館を利用した調べ学習などを通して情報を読み取る力を養う。 200字程度の意見文を定期的に書く機会を設ける。また意見文を書く前には評価基準やポイントを確認し、生徒がそれらを意識しながら書けるようにする。 読み取った内容を、要点を押さえながらまとめる活動を授業内に取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「読む」活動をこまめに設けることで、本文に根拠をいた読み取りの力は少しずつ向上しているが、生徒主体で考えさせることが課題であった。今後は「読み取った内容を説明する」等の取り組みを行い、主体的な学習の中で定着を図ることが必要である。
数学	<ul style="list-style-type: none"> 学力調査を行っていないので、他校との比較はできないが、休校中の影響で間が空いた結果、小学校での既習事項の忘却が見られる。 提出物が不完全な状態で出されることがある。 反応は良いが、実際に問題に取り組むと、課題解決に予想よりも時間がかかったり、基本計算での躓きが見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項の徹底反復。 提出物の達成基準のさらなる明確化と、不完全な提出物の再提出・個別指導の強化。 抜けが出ないようにスモールステップでの課題の積み上げ。 	<ul style="list-style-type: none"> 復習用小テスト及び課題を繰り返すことにより、既習事項の復習を行い、単元内容の知識の定着をすることができた。 補助プリントを用いて、スモールステップでの積み上げをした。今後も得意な分野を特定し、積み上げていくことが課題。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 授業では発言を活発に行ったり、ノートにメモを追加で書くなど、意欲的に取り組んでいる生徒が多い。 資料の読み取り問題など、定期的に記述式で考えさせ、学級全体で共有する活動を行っているが、自分の考えを書くのに時間がかかったり、模範解答となる意見を写すのが中心になっている生徒がいる。 提出物の仕上がりが不十分な生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ノートの取り組みが不十分な生徒には、机間指導を取り入れながらフォローしていく。 コロナ対応をふまえながら、班での意見交換の機会を作り、他者の意見を聞くだけでなく、自分の考えを伝える活動を増やしていく。 提出物については、生徒が取り組みやすい時期に設定したり、一回の分量に配慮し、提出率や課題の完成度を上げていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 自主的に復習をしたり、資料を追加したりと、見本となるノートが増え、ノートを大事にしてい意識づくりができた。 話し合い活動を取り入れ、他者の意見を聞いた後、そこから自分の考えを深める活動を行うことができた。 意見記述の時間では、机間指導による助言を行い、生徒が自信を持って意見を発言できるよう工夫した。 定期考査では、基本的な事項の暗記が十分と言えず、家庭学習の内容充実や意識付けが今後の課題である。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 日頃の授業の様子や定期テストから判断すると家庭学習の定着が十分ではない。 話し合い活動を十分に行うことができず、自分の意見をまとめたり、他人の意見に触れる機会が少ない。 1学期に「実験観察」を充分行えなかったことで、思考判断や知識の定着が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の徹底のために、長期休み中の課題や家庭での復習を進んでやりたくなるような課題を出していく。 状況を見て、話し合い活動を入れ、自分の考えを科学的にまとめられる技能も身につける。 1学期や小学校後半の十分に行えなかった単元の復習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験、観察を可能な限り実施したことにより、実験に必要な流れや実験用具の操作方法などの知識が身についた。 日頃の生活にあることを取り入れることにより、科学を身近に感じることが出来た。 今年度は話し合い活動が思うようにできず、また、人前で発言すること苦手な生徒も多いため、グループ活動で身に付くことが出来た。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に取り組んでいる生徒がほとんどである。 休校により、歌唱表現、リコーダー演奏、グループ練習など、制約が多くある影響で、技術の習得や表現活動の喜びの感得が不十分な生徒が多い。 鑑賞の意欲関心については個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業開始前に、黒板に本時の狙いと授業の流れを板書しておく。授業開始時の本時の狙いを確認する。授業終了前に、ねらいについて再度確認し、授業の振り返りをする。 リズム演奏を通して表現の喜びや、音楽の基礎を習得させる。 記号、用語を学習し、読譜能力を高め、表現活動に生かせるように基礎を固める。 	<ul style="list-style-type: none"> 歌唱の時間が短く、技術の体得には至っていない。くり返し練習したり、何度も見直しや確認をする時間が取れなかった単元(へ長調・創作)は定着率がよくなかった。 箏曲の単元では、意欲的に取り組み、表現できた生徒がほとんどであった。
美術	<ul style="list-style-type: none"> 授業に真面目に取り組もうとする生徒が多くを占めている。 授業の内容を理解仕切れず集中力に欠ける生徒が一部見受けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体指導のあとに個別指導を行い、つまづきを抱えている場合は個別にサポートする。他者との学び合い活動の場を増やし生徒同士で課題解決できるよう指導の流れを工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりと対話する機会を増やした結果、生徒の課題解決意識が高まった。 つまづきを抱えている生徒へ個別に対応したが、一部に改善が難しいケースがあった。発想力のつまづきを補う方法を今後考えていく。
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> 1年生らしく、明るく元気に授業に取り組むことができています。 意欲的に運動に取り組んでいる生徒がほとんどである。 運動を行うにあたっての安全面やマナーの理解が不十分な部分がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習カードを活用し、個々のねらいを明確にして取り組ませる。 課題に対する学習をスモールステップで繰り返し行い、技能の習得に努める。 チームティーチングを有効活用し、個別に声かけを行い、技能を習得させていく。 運動の特性を理解させ、安全面や運動全般におけるマナーについて理解させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は運動会が実施できなかったことで、規律やマナー、自主性といった点の成長が不十分であったように感じる。先輩の姿を見て学ぶという機会がないことの影響が大きかった。 チームティーチングを活用して、個別の対応等、細やかな指導を行うことができた。
技術・家庭	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に取り組み、実習作業となると、より積極性が顕著に現れる。 自分の考えを図に表したり、言葉にして表現する事が十分に行えない生徒が多い。 授業規律や実習中のルールを覚えられない事が多い。 これらについては、休校により理論的な部分を前倒した影響もあると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> プリントやワークなどを用い、より振り返りやすい形で学習や記録を行わせる。 ICT機器を活用し、視覚情報を用いた支援を行う。 思考力や工夫創造を促す具体例を多数例示し、日常生活との関連も示唆する事で、生徒たちの興味関心を高め、より積極的に学習へ取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は実施が難しかった実習題材がいくつかあり、プリントやワークを活用する場面が増えた。ファイルや作品の工程表、反省カード等を導入した事で、学習の振り返りは行いやすくなったと考える。 タブレット等のICT機器を実態に応じて活用できた。 具体例を例示する事で、学習や作品づくりに見通しを持たせる事ができた。
外国語(英語)	<ul style="list-style-type: none"> 授業内には積極的に参加する生徒が多い。 その場限りになってしまい、定着が遅い、未定着が多い生徒が見られる。 判断をちゅうちよする生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 積極的な活動は励ましながら継続させたい。 ページごとの宿題および小テストや単元ごとの確認を行いながら、定着を促す。 発表の機会をもち、自信をつけることができるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 積極的な活動を行うことができた生徒が多かったが、基礎の定着、活用はさらに練習させていく必要がある。 スパイラルに練習をさせていく必要がある。
総合	<ul style="list-style-type: none"> キャリア学習において、自己の性格や適性を考える活動や身近な人への職業インタビューを行ったが、どの活動も前向きに取り組み、将来を考えるきっかけとなっていた。いっぽうで、今年度は校外学習が実施されないうえ、「協同的な学習」をする機会が減っていることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後は職業調べを行っていくが、個々の調べ学習のみを主とするのではなく、発表活動などを通して「協同的な学び」が得られる場面を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 職業調べの活動では、多種多様な職業について知り、自己の将来について考える機会とすることができた。いっぽう「協同的な学び」については今年度の実施は困難であったため、次年度の課題としていきたい。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> 授業には前向きに取り組む生徒が多い。いっぽうで、ひとつの道徳的価値について多面的・多角的に捉えて考えることには課題が見られる。また、自分の考えを他者に伝えたり、他者の考えを聞いて考えを深めたりすることにまだ慣れていない生徒も見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 少人数グループで意見交換できる場面を設定したり、教室内で自由に意見交換できる時間を設けたりするなど、様々な考えに触れ、多面的・多角的に道徳的価値について考えられる活動を取り入れる。また、授業前後に教員同士の実践例を共有し、発問や展開の工夫について協議する機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別での意見交換や全体での意見共有を通して、様々な視点で道徳的価値について考えさせることができた。また学年の教員間でも実践例や授業内の工夫の共有を行い、授業力の向上につなげることができた。学年の傾向として「他者とのかかわり」に課題を抱えている生徒が多いので、今後は道徳の授業においても、より工夫をしながらかえさせる活動を取り入れていく。